

高次脳の知識や対応法を学び、支援の輪を広げよう

高次脳機能障害研究会



設立の背景

国の施策としてモデル事業が始まった平成13～18年、ようやく診断基準が定まり治療の対象となりました。沖縄県で支援拠点窓口が設置されたのは平成19年。高次脳機能障害者は全国で50万人以上とされ、支援が必要です。しかし、医療や福祉関係者、教育現場でも高次脳機能障害に関する知識や対応法すら充分行き届いていない実情があります。

活動内容

- 高次脳機能障害の基礎、画像等
 - 各種神経心理検査の解釈と要点
 - 社会資源～就労
 - リハビリメニューと自主訓練
 - 症例検討
 - 啓蒙活動、学会発表
- 障がいを抱えながらもその人らしく生きられる支援が理想です

勉強会（含予定）

日時

6月29日(水)19：00～20：30
7月27日(水)19：00～20：30
8月24又は31日(水)19：00～20：30

場所

沖縄リハビリテーションセンター病院
琉球リハビリテーション学院
南部地区（未定）

※参加費：100円 資料代

詳細が決まり次第、各施設にFAX、メールにて案内します。



沖縄県高次脳機能障害研究会

略称：HBD研

問い合わせ先

watanabe-k@ryukyu.ac.jp

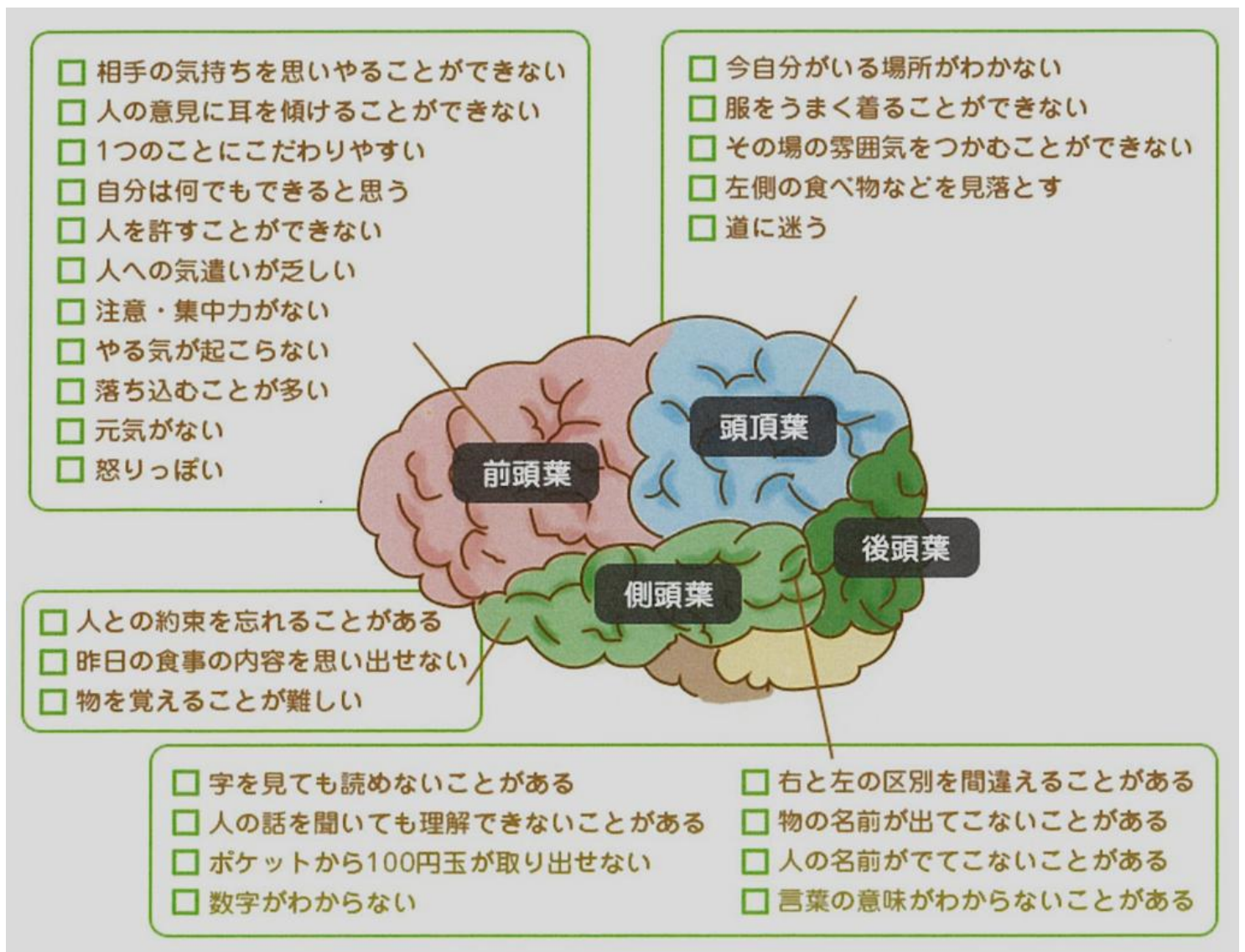
研究会メンバー

渡辺健一（代表者：琉球リハビリテーション学院）
安村勝也（沖縄リハビリテーションセンター病院）
阿嘉太志（沖縄リハビリテーションセンター病院）
石川正樹（沖縄リハビリテーションセンター病院）
森谷優希（沖縄リハビリテーションセンター病院）
松田淳志（沖縄リハビリテーションセンター病院）

高次脳機能障害

脳血管障害（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）や交通事故等による脳損傷が主因です。その他に脳炎や低酸素脳症、脳腫瘍、てんかん、正常圧水頭症等から発症することもあります。

脳機能の内、言語や記憶、注意、情緒といった認知機能に起こる障害を高次脳機能障害と言います。注意散漫、易怒、記憶低下、計画性が悪くなる等の症状があり、全国に50万人位と推定されています。



小児の高次脳機能障害

小児の高次脳機能障害は急性脳症や頭部外傷、低酸素脳症、脳腫瘍、脳血管障害などが原因ですが、発達障害との鑑別が困難です。

- 友だちとの関係づくりが難しい
- 注意が続かない
- 思考の柔軟性に欠ける
- コミュニケーションが苦手
- 学習上の困難を抱えている
- 自己制御が苦手である
- 感覚の感受性が特別である
- 興味の偏りがある